

哲学文化

生命観と人間観を土台性に持ち、個々人、家族、事業体、産業、産業構造、都市と地方、国家、国際性、などという社会形成に及ぼせる基礎と対象と適用の創造体系を生む。基礎観点が希薄化すると、歪な経済性や歪な政治性や歪な教育などという専門分化性が進行する。金融資本主義などという現象になって、顕著にその歪性が顕在化する。

静的	根本且つ大局性			
	相関と習慣			
動的	感性	観念	精神	身体
生態観	生命	創造	社会	自然
社会観	哲学	教育 経済	政治	産業
国際 国家	理念	意思 形成	政策 全体	個別 政策
都市と地方				
産業構造 産業				
事業体	理念性	意思 形成	政策 全体	個別 政策
家族	家訓	意思 形成	政策 全体	個別 政策
個々人、	感性	観念	精神	身体

根本性を反映して、哲学と教育経済と政治と産業として社会観が作られる。健全な生命観を基礎にして、社会観に反映される。そして、「法律」や「金融」や「情報」という特定概念はどのような性格と位置づけを生むのか。生命観と社会観という観念が希薄な状態による金融観等を招くと根本性の歪化した特殊作用の伸長や過剰という現象を招く。

根本性の歪化した対象性に陥らぬように、生命や人間や創造という基礎観点が精査される。妙に財力や権力に依存して外界を支配従属させる体質が進む。概念や領域観を引き出す作用が弱く物的力による秩序を求める歪性が現れる。或いは、支離滅裂な言葉や概念を散発させて露出性を高め、知名度によるピンハネ型の搾取と支配を求める歪性が出現する。暴力性と詐欺性といった過剰性の認識を生む。

感性と観念と精神と身体の良い在り方を問い、根本原理性と定まり、対象性を想定し一貫した性格の領域と広がる軌道性をもって、人間と生態の永続的な世界観を実現する。製造という生産性に対して、「流通性過多、広告性過多、金融性過多、情報性過多」などという特殊領域性が強められる。根本観点から見て、どのような産業構造に映し出されるか。妙に力に依存性を高めた社会の枠組みにないか。

上からの力に受動性の高まる人形と機械性を作る様な流れが増すと、愚衆的ポピュリズムや病んだ資本主義という様相が生まれる。力への依存と外界の支配従属性という基調の画一性と強権性を齎せる。言葉や概念も、自己の観点から再構成させ稼働に連ねる態度を省き、無自覚と自己不在で、右から左に流通させ糧を得る歪性を生じさせる。力任せに量を裁き糧を得る構造が強められる。感性の歪化と感覚過多の病んだ権力志向と独裁性が作られる。

根本的な観点に歪性を有する者が大きな力を得て力任せに外界を操作する態度が強められる。無思考物質性という無機質合理の因果と生産系が広げられる。規模や量の発想が強く、質への関心が減退し、規格量産性の需給と寡占制に及んで、歪な社会関係が産み出される。領域の中心性が歪化すると、歪性の連鎖拡大性が加速する。

哲学や宗教という特定領域に健全な生命観が起こり、教育や経済や政治と産業の性格に回り、文化という長期様式性を存続させる。妙に、構造的に依存して外界を従属させる根の歪性が強まるほどに、生命と人間の根本性が病む。暴力性と詐欺性に支配された生命と人間と社会性を広げ深める。

力と活用の適正を外し保身と利己性に権力や財力を用いる割合の増す歪性が生まれる。自律性の喪失と無法性の世界が拡大する。こうした負け犬症という恥知らずが存続する事になり病理性を放置すると空間全域の性格に広がる。

受動的な物理依存の体質に対し、健全な感性から言葉や概念、領域観、世界観を表し、あまりに物理化した生命の崩れを補正させる作用が求められる。思想世界観を問い表す作用が作られる。物理対応に偏り、概念の探究や提起を喪失すると短変数の機械性と画一の世界が進行する。これでは国益も妨げる。国益とは何か。健全な思考が働かずに、受動反応が増し短期的利益追求が増し長期性の軌道から外れる。

あまりに偏狭的な感覚が強まると根本性と大局観を委縮化して歪な利益追求に外れる。「教育の独立性」などという観点が起こり一定の肯定感と尊重性が与えられる。どこの領域にも共通する同一性の尺度を揃え自領域に偏った過剰な利益性への制御に及ぶ作用を内蔵させ、内外との適正を遂げる仕組みが進む。根本且つ大局性と個別特定性の観点と相関の体系と周期生を産む。